

TITHES & OFFERING

◆礼拝式の中で、献金が行われることの意味。

【献金は主を崇める礼拝行為】

箴言三章九節「あなたの財産で主をあがめよ。あなたのすべての収穫の初物で。」

【献金は、私たちの神への献身を現わす行為】

ローマ書十二章一節「ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。」

【献金は、互いに愛し合うという神の国の現れ】

Ⅱコリント八章一節〜八節「さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思えます。彼らの満ちあふれる喜びと極度の貧しさは、苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、惜しみなく施す富となりました。私は証します。彼らは自ら進

んで、力に應じて、また力以上に献げ、聖徒たちを支える奉仕の恵みにあずかりたいと、大変な熱意をもつて私たちに懇願しました。そして、私たちの期待以上に、神のみこころにしたがつて、まず自身を主に献げ、私たちにも委ねてくれました。それで私たちは、テトスがこの恵みのわざをあなたがたの間で始めたからには、それを成し遂げるようにと、彼に勧めました。あなたがたはすべてのことに、すなわち、信仰にも、ことばにも、知識にも、あらゆる熱心にも、私たちからあなたがたが受けた愛にもあふれています。そのように、この恵みのわざにもあふれるようになってください。私は命令として言っているではありません。ただ、他の人々の熱心さを伝えることで、あなたがたの愛が本物であることを確かめようとしているのです。」

◆献金の原則と祝福

Ⅱコリント八章一節～十五節

聖徒たちのためのこの奉仕については、これ以上書く必要はありません。私はあなたがたの熱意を知り、そのことでマケドニアの人々にあなたがたのことを誇って、アカイアでは昨年から準備ができていると言ったのです。あなたがたの熱心は多くの人を奮い立たせました。私が兄弟たちを送るのは、あなたがたについての私たちの誇りが、この点で空しくならないためであり、私が言っていたとおりに準備してもらうためです。そうでないと、もしマケドニアの人々が私と一緒に行って、準備ができていないのを見たら、あなたがたはもろんですが、私たちも、このことを確信していただけに、恥をかくことになるでしょう。

【献金とは祝福の贈り物】

そこで私は、兄弟たちに頼んで先にそちらに行ってもらい、あなたがたが以前に約束していた祝福の贈り物を、あらかじめ用意しておいてもらうことが

必要だと思いました。惜しみながらするのではなく、祝福の贈り物として用意してもらうためです。

【献金と種蒔きの法則】

私が伝えたいことは、こうです。わずかだけ蒔く者はわずかだけ刈り入れ、豊かに蒔く者は豊かに刈り入れます。

【献金の大原則】

一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛してくださいなのです。

【献金の報い】

神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることがおできになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべての良いわぎにあふれるようになるためです。

【献金（献身）の模範は、十字架の主】

「彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠にとどまる」と書かれているようにです。

（「彼」とは、イエス・キリストのこと）

【献金のための財源を与えてくださる】

種蒔く人に種と食べるためのパンを与えてくださる方は、あなたがたの種を備え、増やし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。

【献金は、祝福の扉を開き、感謝を生み出す】

あなたがたは、あらゆる点で豊かになつて、すべてを惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して神への感謝を生み出すのです。

【献金は、経済的な欠乏を満たす以上の祝福をもたらす】

なぜなら、この奉仕の務めは、聖徒たちの欠乏を満たすだけでなく、神に対する多くの感謝を通してますます豊かになるからです。

◆献金の注意点

* 献金はパフォーマンスではない。

マタイ六章二節〜四節 ですから、施しをするとき、偽善者たちが人にほめてもらおうと会堂や通りでするように、自分の前でラツパを吹いてはいけません。まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。あなたが施しをするときは、右の手がしていることを左の手に知られないようにしなさい。あなたの施しが、隠れたところにあるようにするためです。そうすれば、隠れたところで見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

* 献金額で、信仰が評価されることはない。

ルカ二十一章一節〜四節 イエスは目を上げて、金持ちたちが献金箱に献金を投げ入れているのを見ておられた。そして、ある貧しいやもめが、そこにレプタ銅貨を二枚投げ入れるのを見て、こう言われた。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、だれよりも多くを投げ入れました。あ

の人たちはみな、あり余る中から献金として投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っていた生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」

* この聖書的原则から、教会では、献金額は公表しない。多額な献金が捧げられても、献金者に対して特別な扱いはしない。

◆ 献金の実際

* 献金の捧げ方

礼拝式における席上献金、オンラインによる献金、郵送による献金などを受け付けている。現金、チェック、クレジットカードを利用できる。チェックの宛先は「Honolulu Christian Church」

* 献金の種別の説明

英語はオンライン献金の選択項目の表記

▼ 一般会計への献金（教会の実際の運営全般に使用される） Monthly & Weekly Tithes

▼ 特別会計への献金（用途が指定された献金）

Seminary Student Support（神学生支援）

Youth Support（ユース&カレッジ宣教）

Building Fund（教会建物 維持、修理）

Personage Fund（日語部牧師館建築）

Crisis Fund（災害支援など、緊急援助）

Mission Fund（宣教支援）

Revival Fund（教会増改築プロジェクト）
Heavenly Fund（御国基金 用途を決めない、

まとまった額の献金）

OMS Birthday（教団誕生日 牧師の保険料に充当
される）

OMS Founders Day（教団創立感謝 引退牧師支援）

● 献金の管理

* 収入

捧げられた献金は、会計奉仕者によって集計される。集計された献金は、会計係によって預金（される）。

* 支出

支出は、財務係より行われる。ただし支出の認可は、執事会によって行われる。

* 会計報告

会計報告は、毎月の執事会で報告される。会計報告は、ウィークリーニュースに掲載される。ホノルル

教会の会員は、いつでも個人情報以外の会計報告を閲覧できる。

会計奉仕者は、個人の献金情報に関して守秘義務を負う。牧師であっても個人の献金情報を知ることができない。

●十分の一献金について

十分の一献金とは、収入の十分の一を献金として捧げること。

この理解に関しては、教会によって異なる見解がある。

*ホノルル・キリスト教会 関牧師の見解

旧約時代のユダヤ人は、律法に従い（レビ記二十七章三十節、民数記十八章二六節、申命記十四章二四節、第2歴代誌三一章五節）、収入の十分の一を幕屋、神殿における礼拝祭儀のために、またそれに奉

仕するレビ人の生活のために捧げていた。マラキ三章八節〜十節には、その十分の一を捧げることが怠っていた民に対する警告が記されている。

新約聖書の中には、十分の一献金を献金の原則として記す記述は一か所もない。一つの理由は、ユダヤ人にとっては自明の事であり、あえて記述する必要がなかった。しかし、異邦人クリスチャンに対しても、その記述はない。

イエスは、ルカ十一章四二節で「十分の一もおろそかにしてはいけない」と述べている。しかし、これは律法のもとにある者たちに対する言葉であって、イエスによって律法が成就した恵みの時代においては、十分の一は献金の原則としては扱われてはいない。

恵みの時代における献金の原則は、十分の一という数字ではなく、先に記述されたコリントへの手紙の記述、またはイエスの「貧しいやもめ」に対する言葉にある通りである。

むしろ、私たちの全財産の十分の十が神のものであり、私たちは、収入に応じて、そこから自ら進んで、喜びをもって捧げるのである。

従って、十分の一献金という数字は、絶対的、普遍的なものではない。ある場合には、マラキ書の御言葉を根拠に、十分の一献金をしないことが「罪」であるかのように迫られることがあるが、聖書を正しく解釈するならば、十分の一献金は、そのようなものではない。十分の一献金が出来ないことは罪ではない。

その上で、自らが主に祈る中で、収入の十分の一を捧げると決めることは、それぞれの信仰の歩みとして尊重されるべきである。ある方は、十分の二、十分の三と決める方もいる。

自分は、いくら献金するかを悩む場合には、一つの目安として収入の十分の一を考えてもいいだろう。神が旧約の民に定めた数字を、自分にとっても

意味のあることとして、受け留めることも出来るだろう。

関牧師は、献金額を相談される時、一つの目安として十分の一という考え方をお伝えする。ただし、先に述べたように、律法としてではなく、あくまでも恵みとしてお伝えする。

この見解が、もし、献金をしなくてもいい、生活費が余ったら、困らない程度に、というような献金を二の次にするようになるなら、それは、この見解が意図しているものとは違う。

先のコリントの手紙の記述にあるように、私たちは、主を愛し、主の教会を愛し、隣人を愛するがゆえに、喜びをもって、力以上に捧げるのである。

そのような原則に則った献金が、あらゆる面で祝福を受けることになる。聖書は約束をしている。

十分の一献金を絶対化しないことと、献金を疎かにすることとは違う。むしろ私たちは、それ以上に喜びを持って献金をする者たちでありたい。

しかし、生活の状況によって、本当に献金する余裕がないということがある。その時は、撒くべき種が実るまでの、根を張る時期だと受け止めて、安心して主の恵みの中に留まっていたきたい。

何より大切なことは、先に記載された御言葉の原則に従うことである。
(文…関真士牧師)